

5月の安全運転ごよみ

3日(土)…憲法記念日 4日(日)…みどりの日 5日(月)…こどもの日、立夏 6日(火)…振替休日
8日(水)…世界赤十字デー 12日(月)…看護の日 31日(土)…世界禁煙デー

5月の安全運転目標

視野障害と安全運転

自動車を安全に運転するためには、視力だけではなく、視野を確保していくことが重要ですが、視野に関する障害として視野（見える範囲）が狭くなったり、一部が欠けたりするなどといった症状がありこれらは自覚しにくいという特徴があります。

気づかずに危険な運転をしていたということがないよう、今月は視野障害など視野についてご紹介します。



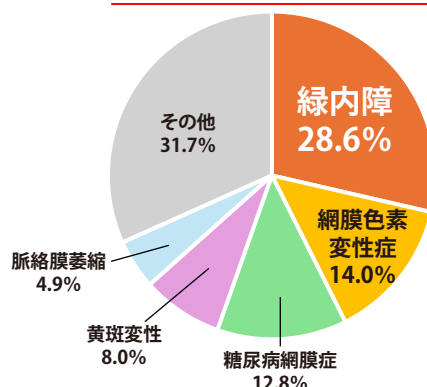
■ 視野障害の原因疾患、もっとも多いのは「緑内障」

視野障害の原因となる疾患としては、視野が狭くなる「緑内障」や「網膜色素変性症」のほか、視界がかすむ「糖尿病網膜症」、物が歪んでみえるなどの症状が現れる「加齢黄斑変性」などが挙げられます。

特に緑内障は目の成人病と言われており、40歳をすぎると約20人に1人、70歳を過ぎると7人に1人が罹患しているとも言われます。

視野障害は自覚しにくいと言われることから、眼科医の診断や治療を行わず、危険な状態で運転していることが少なくないと考えられます。

視野障害の原因疾患



出典：自動車運送事業者における視野障害対策マニュアル

○ 事 | 故 | 事 | 例

視野狭窄を自覚していた運転者に重過失を認定



2015年8月、交差点で信号待ちをしていた乗用車が青信号に従い発進した際、横断歩道を右側から渡ってきた自転車と衝突する事故が発生。

運転者は事故前に「網膜色素変性症」と診断されており、医師からは運転は難しいと伝えられていたにも関わらず運転したとして、その責任割合を8割としました。

(旭川地裁2018年11月29日判決)



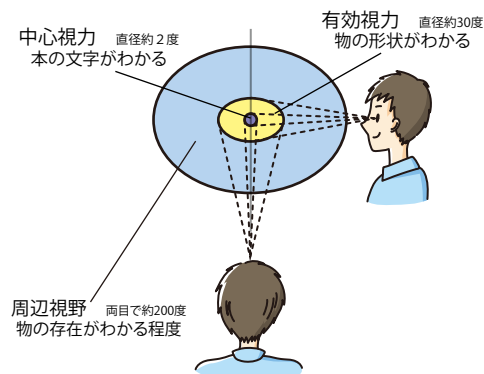
視野について 理解を深めよう

視力が基準(0.7)以上でも、見えていないことがある

人間の視野には、視野の中心部分で物の形や色、細部をはっきり認識する役割を担う「中心視」と、視野の周辺部分で動きの変化など、全体的な状況を把握する役割を担う「周辺視」があります。

運転免許を更新する際に視力検査が行われますが、視力検査は「中心視」という限られた範囲でしか測定されません。

そのため、基準以上の視力がある人でも「視野の狭窄」や「部分欠損」に気付かないまま運転して、事故を起こして初めて視野障害に気付くといったことも考えられます。



視力と視野は異なることを理解しよう

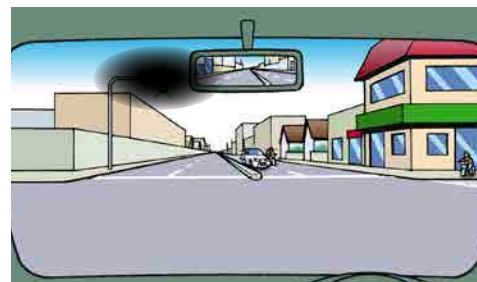
自覚しにくい視野障害

視野障害は、片方の目が他方の目を補ったり、脳が欠損部分を補填したりするため、なかなか気が付きにくいものです。

しかしながら、視野障害にはまったく兆候がないわけではありません。

「横断する歩行者を見落とした」、信号機に気付かなかったなどの経験は、視野障害を疑うべき兆候ですので、注意してください。

そして、そうした兆候が現れた場合には、早めに眼科医を受診するようにしてください。



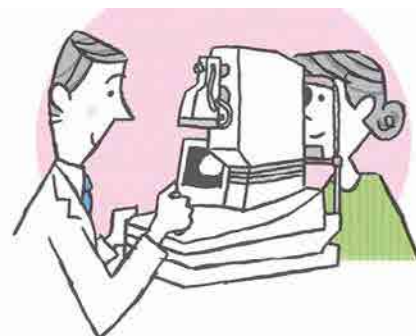
視野障害の見え方のイメージ

管理者として
知っておきたい知識

視野障害は**早期発見・治療継続がカギ**

目の病気の多くは不可逆的です。しかし、少しでも早く発見して治療を開始すれば、運転寿命の延伸につながります。

朝礼や点呼等を通じて運転者の視野障害のリスク認識を高め、眼科検診の動機づけや人間ドックなどによる定期健康診断時に「眼底検査」、「眼圧検査」などの追加検査を図っていきましょう。



眼科健診の受診を進めましょう